

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	設計方法小委員会	主 査 名：本江正茂 就任年月：2014 年 4 月																																													
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：大原一興 主 査 名：西出和彦																																													
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月																																														
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市・環境の設計方法に関わる理論や実践を広く調査・収集・整理・体系化することにより、それらの成果を広く会員に敷衍させ、設計・デザインの質的向上に貢献する活動を継続的に行う。 ・ 設計・デザイン研究に関連する他学会と連携して、我が国のデザイン研究分野の発展に寄与する。 ・ 人工物のプロダクトレベルのデザインや、そこに反映される、あるいはデザインがもたらす様々な背景情報・制約条件・社会システム等のメタレベルの「関係性のデザイン」に関する検討・提案を行う。 ・ さまざまな社会システムの再構築が求められる状況下において、社会的価値を創出するためのデザインのスコープ・プロセス・マネジメント等の方向性をさぐる。 <p>初年度 (2014)：設計方法の理論、用語、手法等の集成、「新しいデザイン潮流」に関連する事例収集・調査研究活動、デザイン関連他学会との連携 (Design シンポジウム 2014 の開催)</p> <p>2 年度：設計方法の理論、用語、手法等の集成、「新しいデザイン潮流」に関連する事例収集・調査研究活動、デザイン関連他学会との連携</p> <p>3 年度：設計・デザインの方法論に関する書籍の刊行準備、「新しいデザイン潮流」に関連する事例収集・調査研究活動、デザイン関連他学会との連携 (Design シンポジウム 2016 の開催)</p> <p>4 年度：設計・デザインの方法論に関する書籍の刊行に関連した公開研究会の開催、「新しいデザイン潮流」に関連する事例収集・調査研究活動、デザイン関連他学会との連携</p>																																														
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">主査</td> <td style="width: 30%;">本江正茂</td> <td style="width: 60%;">東北大学大学院</td> </tr> <tr> <td>幹事</td> <td>脇坂圭一</td> <td>名古屋大学 施設計画推進室</td> </tr> <tr> <td>幹事</td> <td>山田哲弥</td> <td>清水建設(株) 技術研究所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>遠藤政樹</td> <td>千葉工業大学 工学部建築都市環境学科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大西康伸</td> <td>熊本大学大学院 自然科学研究科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>近藤伸亮</td> <td>独立行政法人 産業技術総合研究所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>武田有左</td> <td>(株)山下設計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>仲 隆介</td> <td>京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>長坂一郎</td> <td>神戸大学大学院 人文学研究科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>日色真帆</td> <td>東洋大学理工学部</td> </tr> <tr> <td></td> <td>門内輝行</td> <td>京都大学大学院 工学研究科建築学専攻</td> </tr> <tr> <td></td> <td>和田浩一</td> <td>職業能力開発総合大学校 東京校</td> </tr> <tr> <td></td> <td>渡邊朗子</td> <td>東京電機大学 未来科学部建築学科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>羽鳥達也</td> <td>(株) 日建設計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山口純</td> <td>立命館大学</td> </tr> </table>		主査	本江正茂	東北大学大学院	幹事	脇坂圭一	名古屋大学 施設計画推進室	幹事	山田哲弥	清水建設(株) 技術研究所		遠藤政樹	千葉工業大学 工学部建築都市環境学科		大西康伸	熊本大学大学院 自然科学研究科		近藤伸亮	独立行政法人 産業技術総合研究所		武田有左	(株)山下設計		仲 隆介	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科		長坂一郎	神戸大学大学院 人文学研究科		日色真帆	東洋大学理工学部		門内輝行	京都大学大学院 工学研究科建築学専攻		和田浩一	職業能力開発総合大学校 東京校		渡邊朗子	東京電機大学 未来科学部建築学科		羽鳥達也	(株) 日建設計		山口純	立命館大学
主査	本江正茂	東北大学大学院																																													
幹事	脇坂圭一	名古屋大学 施設計画推進室																																													
幹事	山田哲弥	清水建設(株) 技術研究所																																													
	遠藤政樹	千葉工業大学 工学部建築都市環境学科																																													
	大西康伸	熊本大学大学院 自然科学研究科																																													
	近藤伸亮	独立行政法人 産業技術総合研究所																																													
	武田有左	(株)山下設計																																													
	仲 隆介	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科																																													
	長坂一郎	神戸大学大学院 人文学研究科																																													
	日色真帆	東洋大学理工学部																																													
	門内輝行	京都大学大学院 工学研究科建築学専攻																																													
	和田浩一	職業能力開発総合大学校 東京校																																													
	渡邊朗子	東京電機大学 未来科学部建築学科																																													
	羽鳥達也	(株) 日建設計																																													
	山口純	立命館大学																																													
設置 WG (WG 名：目的)	設計方法レビューWG：設計方法に関する理論、用語、手法等を集成し、これまでの設計方法研究の流れを位置づけ、新しい動向を捉えたレビューを行う。それらの成果を、書籍としてまとめて刊行し、設計方法の教育にも資するようにする。																																														
2014 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：																																													

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得ら れた成果との関係）	<ol style="list-style-type: none"> 「設計方法の理論、用語、手法等の集成、「新しいデザイン潮流」に関連する事例収集・調査研究活動」として、委員会開催時に委員等の研究発表をオープンにおこなった。これまで7回、2月中にもう一回の予定。 デザイン関連他学会と連携して「Design シンポジウム 2014」（一般発表 96 編）を開催した。
委員会活動の問題点 ・課題	なし

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。